

会 議 議 事 録

1 会議名	平成28年度第1回長岡市高齢者保健福祉推進会議
2 開催日時	平成28年11月7日（月曜日） 午後1時30分から午後2時40分まで
3 開催場所	長岡市社会福祉センタートモシア 3階 多目的ホール
4 出席者名	<p>（委員）磯部委員 加邊委員 小林啓一委員 小林守委員 佐合委員 関委員 竹内委員 長谷川和明委員 林委員 藤田委員 堀委員 本田委員長 松田委員 山崎委員 米山委員</p> <p>（事務局）福祉保健部長 福祉総務課長ほか関係職員 介護保険課長ほか関係職員 長寿はつらつ課課長補佐ほか関係職員 健康課長ほか関係職員 長岡市社会福祉協議会事務局長ほか関係職員</p>
5 欠席者名	赤柴委員、浅田委員、鯉江委員、小林和子委員、南雲委員、 長谷川剛副委員長
6 議題	<p>（1）第6期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の進捗状況について</p> <p>（2）平成28年度日常生活圏域ニーズ調査について</p> <p>（3）その他</p>
7 審議の内容	
発言者	議 事 内 容
福祉総務課企画係長	<p>ただいまから、平成28年度第1回長岡市高齢者保健福祉推進会議を開会いたします。</p> <p>本日は赤柴委員、浅田委員、鯉江委員、小林和子委員、南雲委員、長谷川剛委員、以上6名の方々は、所用により欠席でございます。また、長岡市老人クラブ連合会の竹日委員が3月31日付けで委員を退任されました。後任といたしまして、同連合会から林みち子様をご推薦いただき、4月1日付けでご就任いただきまし</p>

<p>林委員</p>	<p>たので、よろしくお願ひいたします。恐れ入りますけども、林委員から、一言ご挨拶をお願ひいたします。</p>
<p>福祉総務課企画係長</p>	<p>(挨拶)</p> <p>ありがとうございました。 それでは、ここで資料の確認をいたします。</p> <p>(資料確認)</p> <p>不足している資料はございませんでしょうか。よろしいでしょうか。</p> <p>それでは、これから議題に入ります。ここからの進行につきましては、委員長にお願ひしたいと思ひます。</p>
<p>委員長</p>	<p>皆さん、ごめんください。</p> <p>今年度、第1回目の会議ということで、ここ、真新しいトモシアで開催できることを本当に嬉しく思っております。こちらに時計がありますけども、聴覚の不自由な方にも緊急文字放送でパッとお伝えできるような形になっており、バリアフリーと申しますか、ある意味ではユニバーサルデザインと申しますか、市から配慮していただいております。この会議の後も、きっといろいろとトモシアの案内があると思ひますけれども、ぜひこのトモシア、「ともに幸せに」という意味で、「ともに」というところがキーワードだと思ひますが、このほか長岡市の福祉のキーワード「ともしび」にもちなんだ名前です。昭和59年から水道町で32年間、障害者団体、福祉団体、ボランティア団体の交流の拠点ということで活動しておりましたが、そこからこのまちなかに新しい社会福祉センターができました。障害者、福祉団体、そしてボランティア団体、市民団体の交流の拠点ということで、ここから情報を発信すると同時に、情報がここに集まりながら、お互いに交流して、ともに幸せな交流の渦を巻いて、ともに幸せになっていこうという意味があるというふうに思っております。ぜひここから、皆さんとともに情報発信し、交流を進めていきたいと思っておりますので、ぜひここを利用してください。よろしくお願ひしたいと思ひます。</p>

	<p>さて、高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画も第6期の2年次でございます。今日は主に第6期のいろいろな目標、計画などに対する進捗状況について報告を受けると同時に、それについて皆さんの意見をいただきながら進めてまいります。もう一つは、次は第7期の策定がありますので、策定前の調査などいろいろな諸準備について、皆さんの声を聞きながら決めていきたいと思っております。</p> <p>では、座って進行させていただきます。</p> <p>なお、できれば2時半過ぎにこの会議を終わらせて、トモシアについて、ここは3階なんですけれども、2階には相談機能と事務所があり、そして1階のボランティアセンターということで、案内をしたいと思っておりますので、お願いします。</p> <p>では、議題を進めさせていただきます。今日は傍聴人がおられませんけれども、情報公開していますよね。よろしくどうぞお願いします。</p> <p>それでは、議題2の「(1) 第6期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の進捗状況について」、事務局から説明をお願いします。</p>
<p>長寿はつらつ課 課長補佐</p>	<p>長寿はつらつ課です。よろしくお願いたします。資料No.1-1から資料No.1-3をご用意ください。</p> <p>(説明)</p>
<p>介護保険課長</p>	<p>続きまして、介護保険課でございます。</p> <p>(説明)</p>
<p>福祉総務課長</p>	<p>続きまして、福祉総務課でございます。よろしくお願いたします。</p> <p>(説明)</p>
<p>健康課長</p>	<p>それでは、最後に健康課でございますが、健康づくりの支援等について、ご説明をいたします。</p>

<p>委員長</p>	<p>(説明)</p> <p>ありがとうございました。長寿はつらつ課、介護保険課、福祉総務課、健康課から各分野のところを資料No.1-1を中心に、在宅生活を支える体制、認知症対策、あるいは、持続可能な介護保険制度の推進と適正な運営、健康づくりへの支援など、大きい項目の中で話していただきました。そのほか細かい点については、次の資料No.1-2になるのでしょうか。細かくはここに載っております。この時間は皆さんからご意見、あるいは質問などありましたら、よろしくお願ひしたいと思ひます。</p> <p>はい、お願ひします。</p>
<p>委員</p>	<p>質問じゃなくてコメントなんですけど、ICTの利用を小国と栃尾で医師会と市が中心になって立ち上げて、登録者の数はだいぶ増えてきたんですけど、最大の問題点は個人情報との関係で、その人が良いと言わないと載せられないという問題があります。応募の数は多いですけど、実際利用できる人の数はまだあまり多くないですね。そうすると、病気になったりして、急に運ぶことになったときに、本当は施設とかいろいろなところが情報を見られるようにということではじめているんですけども、それに載っている人の数が必ずしも多くないので、まだどこまでそれができているのが大きな問題です。ただこの試み自体は全国的に見ても、非常に進んでいるほうで、全国のモデルになる面もあるんですけど、今言ったように個人情報の問題でなかなかちゃんと使えないという問題が残っております。以上です。</p>
<p>委員長</p>	<p>はい。何か、コメントはありますか。</p>
<p>長寿はつらつ課 課長補佐</p>	<p>今の委員のおっしゃるとおりでございます、市民の方から、高齢者の方からこちらに登録をしていただきたいというのが私どもの希望なんですけれども。やはり、いろんな病歴とか、また個人情報非常にいっぱいあるもんですから、なかなかご利用の方でも二の足を踏むということもあると思ひます。私どもはやはりターゲットを絞った中で、こういうものが必要なのはご家族と住んでいる高齢者というよりも、お一人の高齢者の方には非常に有</p>

	<p>効性があると思っておりますので、これからも多くの方が対象なんですけれども、やはりターゲットを絞った中でメリットをお話ししながら、認知度、ご利用者を増やしていきたいと思えます。当然のことながら個人情報については、さらにですね、固く守るといふか、きちんとするようにはしていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。</p>
<p>委員長</p>	<p>はい、ありがとうございます。個人情報についてはいろいろありますけど、その連携システムを使うことよりも、連携によってその方の介護、医療の面をより良くするという意味をまた、利用者の皆様にお話しをすると。これまでもお話しされているとは思いますが、つつい ICT、情報連携となりますと「個人情報」という感じに。そちら以前にメリットだと思えます。</p>
<p>長寿はつらつ課 課長補佐</p>	<p>今、個人情報のお話があったと思えます、そちらについてお話ししたいんですけれども、そもそもこの件には救急隊といふか、そちらの話もあるんですけれど、大勢の職種の方が、例えば高齢者には介護の方も入っているだろうし、保健の方も入られるし、介護にもいろいろな事業者がサービスで入られるかと思えます。それらの多職種の方がタブレット端末を利用することで、その方のサービスの内容とか、それから病歴とかを情報共有して医療機関に伝えたりだとか、サービスについての連携の一つのツールとしても使えらと思っております。今は、薬は薬、医療は医療、介護は介護、という縦割りになっているような体制をタブレットを使うことによって、多職種の方が使うことによって、連携しながら一緒に支えていく体制にしていきたいと思っております。</p>
<p>委員長</p>	<p>ありがとうございます。良いご意見ありがとうございます。</p>
<p>委員</p>	<p>基本的には、今のものをどうやって進めていくかというのが一番重要。全国でも非常に良いシステムなんで、いかに許可を得ていくか。もう一つは、施設の人結構使えるんですけれども、施設の人が入居者から許可を得るといふことで、開業医の先生も許可を得るといふ、その操作が実は結構時間が掛かって、フェニックスネットの最初の応募はすごく多かったですけれど、実際に OK</p>

<p>委員長</p>	<p>のサインをもらっている数は話ほど多くはなくて、毎回増えておりますけども。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>はい、どうぞ。</p>
<p>委員</p>	<p>地域包括ケアの推進という項目で、これは2025年を目指しているプランがあるわけですけど、今の段階では多職種の顔の見える関係づくりの段階だと報告があったんですけど、これは各包括センターごとにいろいろと差はでてくるんだと思うんですけど、特に支所地域なんかですと、医療の関係でいろんな課題が多くあると思うんですよね。これからですね、長期プランなんですけれども、もう少し今後の推進計画といいますかね。2年後、3年後というようなことで、アクションプラン的なことで3年後にはここまで行くんだということですね、定めて進めていったほうがいいのではないかと考えています。それからですね、実は私、寺泊なんですけど、寺泊の地域委員会で包括センターの所長さんからお出でいただいて、この話についていろいろと意見交換したんですが、地域の包括センターでは具体的に真剣にその部分に取り組むというスタンスがまだ取れていない気がするんですよね。顔の見える関係づくりの場から、これから進めていく上でどういう課題があって、どういう問題点があって、どこが難しいのか。特に地方にいくと、なおさら地域包括ケアシステムの構築っていうのは結構難しい課題が多いんだと思うんですけど。そういう点で、今一歩進めた取組が必要じゃないかなと思っていますのでよろしくをお願いします。</p>
<p>委員長</p>	<p>ありがとうございます。はい、どうぞ。</p>
<p>長寿はつらつ課 課長補佐</p>	<p>その件につきましても、2025年というのはもうあと7年、8年先になっておりますので、私たちもそれを見据えまして、委員の言われたとおり、地域が中心になりますので、顔の見える関係づくりをしながら、本当に具体的な例を少しずつ皆さんで対応しながら進めているところでございます。今、圏域ごとにそれぞれ具体的な事例を検証したり、施設の事例を持ち寄って皆さんで検討したり、ケースごとにケア会議を開いておりますので、そこから</p>

<p>委員長</p>	<p>地域の課題とか、そういうものが見えてくると思います。そういったことを次の計画等に具体的なものとして反映していきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。</p>
<p>委員</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>今、顔の見える関係づくりとか、そういう話がありましたが、寺泊の包括支援センターでは、私どもの地域包括支援センターでは各地域ならではの顔の見える関係づくりとかそういう動きの中で、いろいろな職種が集まって情報交換会というか、講習会等を含めた中でのこういう交換会のことを各包括でされているという状況で、そこを本当に市というか地域包括が中心になってやり始めているという状況はあるな、というのは思っています。包括にもたぶんいろいろ状況があった中で、そうじゃないところもあるのかなと思っていますが、そういう動きというか、そういう形の中で、いろいろ方法を使いながら、顔の見えるそのまま関係づくりをやられてきている、始めたのかなというのを感じている次第であります。</p>
<p>委員長</p>	<p>いろいろ動き出している、というお話でございました。</p> <p>はい、お願いします。</p>
<p>委員</p>	<p>お聞きしたいことなんですけどね。実は今日の新潟日報の一面のトップで、特養の入所者が全国的に48%減少していると。私、出てくるときにちらっとしか見てないんで、深く読んでないんで、誤解の面もあるんですが、確か斜め読みした段階では、要介護3以上でないと今度は特養に入れない。したがって、全国的な平均でいうと48%くらいの特養の入所が少なくなってきた。反面ですね、在宅介護にその分がそっくり移っているんじゃないか。在宅介護の手当てなくして特養を減らしても、在宅の人は大変だなというような意味かな、ということが書いてあったんですね。それで、新潟県もだいたい全国平均的な数値だったように覚えています。長岡あたりはやっぱり特養の入所率は減ってるんですか。</p>
<p>委員長</p>	<p>ちょうど今日、新潟日報の一面のところに、48%待機者がある年度から比べると減少していると。そこにはいろいろな要因があ</p>

<p>介護保険課長</p>	<p>るんですけれども。</p> <p>はい、すみません。具体的な数字というのは持ち合わせていないんですけれども、先ほどおっしゃった原則要介護3以上の方ということになりましたので、待機者としては長岡まだ2000人ちょっとくらいの待機者が、調査するとおられるんですが、いざ入所となったときに私の聞いている範囲ではわりと入所しやすくなっているという話もあるんですけど、ただ40%も空きがあるというような、長岡はそういう状況ではないと思っています。ほぼ特養については、サービスの定員まで入所されている状況かなというふうに思っております。先ほど申しましたけれども、入所者数は今のところそんなに去年に比べると減ってはいませんが、これからいわゆる団塊の世代の方が後期高齢になって、10年後以降はどうなるかというあたりも見据えて、今後は特養、施設をどうしていくか、あるいは在宅でのサービスをどのようにしていくかについて、しっかりと検討していかなければならないというふうに考えております。以上です。</p>
<p>委員</p>	<p>今の質問と答えにちょっとギャップがあるんですけど、40%以上減ったっていうのは、申し込む人が減ったということではないんです。空きはもう空いたらすぐふさがるといっていいくらい入っています。ただ今までは非常に軽い人から、重い人まで、平均すると特養は要介護度4と5が多いんですけども、実際要介護度1、2も入っていたんですね。そうすると今度4、5の人でも入れないって問題があったのが、今度は1、2を外すことによって4、5の人が入りやすくなる。それでもなおかつ待ちはいっぱいあるんですけど、じゃあ待っている人がどこにいるかというと必ずしもみんな在宅にいるわけじゃなくて、今病院にいたりだとか、いろんなところに入っている人がいます。実際、長岡の入所状況は全国的に良いほうで、わりあい希望して入れる率はよそに比べると良いんですね。そういう意味では比較的地域としたら全国的に見たら恵まれているほうです。ただ、これはもう先ほど話がありましたように、今後の高齢化社会を考えると、1、2を入れ出したら、ものすごい何千万という数が、そんなことできかないので、だんだんと本当に必要な4、5の方に特養が絞っていくという形。今、むしろ難しい問題は特養の問題よりも、介護保険</p>

	<p>を利用した病院に入っている介護療養病棟がなくなるんですね、何年か後に。その人たちがどこに行くかっていうのが非常に大きな問題で、そっちのほうが問題であって、特養自体は今言ったように、条件をよりリーズナブルな方向にもって現状に合うようにするって方向で動いているので、そっちの方向は、方向としては正しい方向に向かっているんじゃないかなという気はしております。</p>
<p>委員長</p>	<p>はい、ありがとうございます。この待機者というのは長岡ですと、何千人でしたかね。Aという施設の待機者、Bという待機者ということで、それを足していった数字でございませうか。</p>
<p>介護保険課長</p>	<p>名寄せして 2000 人以上ですね。</p>
<p>福祉保健部長</p>	<p>実人数で 2000 人以上いるんです。それを今、委員のお話のようにですね、実際だと思っております。今日の新潟日報の記事は、ちょっと誤解を招きかねないかなと思っております。よく読むと、特養は要介護 3 以上に限定したので、4 割も待機者が減ったと、こういうことになっているんですが、ただそれだけが要因ではなくて、全国的に見ますと、サービス付き高齢者向け住宅ですとか、様々な受け皿も進んだりしていますので、それによる受け皿の広がりも一定の背景にあるだろうというふうに、記事にはなっているんですね。ただ、見出しに 4 割減とありましたので、全部弾き飛ばされたような印象になって、その 4 割がどうしたんだとなったら、在宅で負担がかかっているという、いくつかのインタビュー記事で、その家族が困っているというふうなのに、なんとなく結びついている記事になっているんですが、必ずしもそれは実態と合っているのかというのは、これは現場感覚でミスがあると思っています。さっき 2000 人以上は長岡市の実人数で名簿に登録されている方がいらっしゃるんです。ただ、それで一定程度、今回 1、2 の方は元々申し込んでもだめだとなりましたので、数字としては減ったということもあるんですけども、ただ実際、長岡市も特養に入られている方は 3 以上が 9 割以上というのが現実ですので、その影響はそれほどないと思っています。それが、したがって在宅に戻されたのかというものではなくて、現在も在宅で介護サービスを受けながら、在宅でいられるというのが現状です。</p>

	<p>そこが大きく数字が変わったわけではないということなんですよね。排除されて、在宅介護が増えたということではない。現状すでに在宅で頑張っているということなんですけど、ただそうはいっても、在宅サービスをこのままの状態でご我慢していくというわけにはいかないということもありますので、我々の施設で受け入れるサービスと、それから在宅でやれる人はやっていくというか、そういう需要のバランスというのは常に見なきゃいけないなというふうに考えています。今日の記事は私も読んで、なんというかマスコミさんの見出しの力っていうのが、現状に合わない受け取られ方をしかねないな、というように思っています。実際、今回の改定の影響とかも、長岡市としても現状もう少し詳細に実態を把握した中で、捉えていきたいとは思いますが、一層困ったなというような話はないなというふうには思っております。</p>
委員長	<p>はい、ありがとうございます。待機者何名と数で言っているものですから、実質的な面で、先ほどの整備計画のところでのように整備しますよというのも相まって、これから全体的な方法、できるだけ在宅の中で、あるいは施設の中でその人に合った介護ができるような体制を進めているというような理解の仕方よろしいですかね。ただ、人数だとかパーセンテージだとか、その数字に驚いてしまうし、先ほどの名寄せ、〇〇さんがAという施設に申し込んで、〇〇さんがBという施設に申し込んで、またCという、その全部の合計ではなくて、名寄せするとだいたい2000人の方という理解でよろしいでしょうか。ひと頃は、待機者の数がものすごくあって、驚いたことがあったんですけど。</p>
福祉保健部長	<p>若干、数は減っていると思います。減る傾向です。</p>
委員長	<p>ありがとうございます。</p>
委員	<p>まさに誤解を招きやすい記事ですよね。</p>
委員長	<p>最後、介護難民が入れないのというふうに書かれてあったのも、これはどうだろう、と思った部分があるんですけど。中には、大勢の中には、おられるのは事実でございます。</p>

委員	<p>介護難民が出るとすると、さっき言ったように現在入院している人たちを施設は受け取らない。入院はなくなる。それが実は介護難民とすると一番大きい。</p>
委員長	<p>療養型の施設のことですね。介護と医療、同時に進めている施設でございます。その施設が将来どうなるんだろうか、というのが今ちょっと問題になっています。</p>
委員	<p>ちょっとだけ、これも質問なんですがね。さっきのこの資料No. 1-1のことですが、介護保険事業費ということで給付費全体の伸びは低下したものの、計画の達成率は93.6%だと。これはどういう意味かということなんです。これは介護保険給付は、全体としては少ない伸びに留まったんだけど、しかしながら、その対象となる人が介護保険を受けているという数は伸びている。こういう意味ですかね。</p>
介護保険課長	<p>給付費全体の伸びは、昨年に比べると低下しているんですね。しているんですけど、計画の推計値が、計画上の数字があるんですが、それに比べると93.6%。去年の実績というのがあって、それとは違う計画上の27年度の計画値というのがございます。その計画値と比較すると93.6%でした、ということです。</p> <p>先ほど言いましたけれども、推計値に比べると認定者数が実は減っています。高齢者人口が減っています。ですので、全体として給付費は、計画上は認定者数も多く見えますし、当然数字としては計画値は大きい数字が出てはいるんですが、実際は認定者数も下回ってますし、高齢者人口も下回っている状況から計画値よりも実績は下回った給付だったのかなというふうに判断される。実は2つの比較がされますので、なかなか分かりにくいことになっていますが。</p>
委員	<p>いや、なんとなく分かります。よく役所で使われるようなものですね。はい、分かりました。</p>
委員長	<p>はい、ありがとうございます。 では、次に移っていききたいと思います。「(2)の日常生活圏域</p>

<p>福祉総務課長</p>	<p>ニーズ調査について」、を事務局から説明をお願いします。</p> <p>はい。今年度実施いたします日常生活圏域ニーズ調査について説明いたします。</p> <p>(説明)</p>
<p>委員長</p>	<p>はい、議題（２）のニーズ調査についてということで、説明いただきましたけども、全国の値、それから今までの経年比較というようなのも踏まえながら、ということでございます。</p> <p>もう 11 月から、これが OK が出ればやる、ということですね。いかがでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>最初に見せていただいて、私が書く立場としては書きやすいな、ということは確認しました。</p>
<p>委員長</p>	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>11 月に始めて、今まで流れもあるという点で集計・分析を長岡大学に委託して、ということですね。</p> <p>よろしいでしょうか。それでは今の説明に対しては、特に質問がないようでございますので、議題（２）については、これから大変でございますけども、来年 3 月にこの会議を開かれて、このような結果になりましたよ、というお話を受けることができるのではないだろうかと思います。</p> <p>それでは「(3) その他」ということで、今までの経過の中でございましたら。はい、どうぞ。</p>
<p>委員</p>	<p>私、長岡老いを考える会というところから出ております。介護を利用している人、家族が介護を必要としているという方たちがいっぱいおりますので、それだとお互いに問題点を話し合ったりするんですけども、そんな中で、やっぱり介護人材の不足とかうんぬんいろいろあるけれども、介護技術の向上、職員さんの介護技術の向上をやっぱりお願いしたいということです。ある利用者が、ショートステイを利用して 3 泊 4 日で行ったら、3 泊目のときに顔を見に行ったら、動けなくなっていたって言うんですよ。つまり、ショートステイだから、いろいろな人が出入りする</p>

	<p>わけですよ。それで、職員さんの数も決まっている。部屋は広いけども、結局その中でコミュニケーションがなかなかうまくいかない。職員さんも少ないという形で、家にいた時より動けなくなって、呆然として連れて帰ろうかと思ったような、そんな事実もあったようなんです。ですので、確かに介護人材、大変だし、いない。本当にその場に、例えば9人のショートであれば、職員さんのそんな数はいないし、出入りがあるわけですから2日3日に入れ替わるわけだから、見ていくのはなかなか難しいとは思っています。けれども、やはりその辺は、介護される方も大変だと思うんだけど、やっぱり思い、それからぜひ技術の向上ということ、いつもお願いしたいねっていうのがありました。あと、同じデイサービスでも違うところに行っていると、食事の内容がやっぱり違うっていう。それは全部とは言えないんですけど、あるところは施設のほうで作っている、あるところは結局業者に委託して、業者が持ってくる。ということは、おのずと内容が変わってくるよね、というような、そんな具体的な話も出てきます。そんな現実もあるんだ、というのを一言ここで述べさせていただきました。</p>
<p>委員長</p>	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>介護人材、人材の問題、そして質の問題。それをより質を高めていただきながら、介護の技術の面を伸ばしていただきたい、ということで、またいずれかの機会のときに、いろいろな関係機関との間で、ぜひそういうご意見があったと。意見というか、伸ばしていこうということを、ぜひ入れていただけたらな、と思っております。</p>
<p>委員</p>	<p>はい、その他いかがでしょうか。</p> <p>私は施設の立場ですので、確かに人材の不足という状況は本当に切羽詰まった状況ではあるんですけども、ご指摘いただいたとおり、介護職員の質というところに関しましては、施設で取り組んでいかなきゃいけない。基本的な介護というところになってくると、資格をもたない方でも、今はたぶんこの施設も無資格でも介護職員として採用しているという状況もありますので、そこはやはり教育の問題とかっていうのは、大きな課題です。これは私ども施設もそうですし、他のところもそういう状況ではある</p>

	<p>んじゃないかなというのは推測はされますので、そんな中でも施設ではやっぱり技術・知識の向上というのは一番最優先に考えなきゃいけないというふうに思っています。そこで今回の市からの補助、要は資格取得のための補助金を出してくださるという状況がある中で、やっぱり基本的に私ども介護職員としては、プロとしての介護職員として介護福祉士という国家資格をもって、仕事をしてもらいたいというのが施設としてはあります。その辺のところをきちんと養成できるような施設としての取組というところがありますし、市がそこに支援をしてくださるのも、非常にありがたいという部分がありますので、質の向上にはさらに取り組んでいきたいな、と考えています。</p> <p>先ほどの委員のご意見に対しては、本当に「ああ、そうだな」というものがありました。</p>
<p>委員長</p>	<p>はい、ありがとうございます。</p>
<p>委員</p>	<p>認知症の関係なんですけど、サポーターの関係、大学にもタイアップして来ていただきまして、非常に感謝しております。学生を見ますと、やはり認知症の高齢者に会ったことがない、会ってるんだけど会ったことがない、というようなことがあって、実体験がないというところなんです。先ほどの表の資料を見ますと、やっぱり認知症の高齢者が多い、さらに脳血管疾患も多い。認知症の予備軍みたいな方が多い。今後、認知症を理解するというのが必要になります。6人に1人が認知症になることですので、この中から6人に1人。学生にもそんな話をするんですけど、ぜひそれも推進していただきたいなと思います。本年度もまた認知症サポーターを同様にして授業にさせていただきますが、あるいは長岡大学以外でも来ていただければと思っております。</p>
<p>委員長</p>	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>今、長岡大学、実学と申しますか、実際のいろいろなことの中で、そういう活動だとか、あるいはボランティア活動の推進だとか、施設あるいはコミュニティと連携を取りながら進めている、というところがございます。ありがとうございます。また、何かあったら長岡大学にご相談、お互いに高める意味で、できたらなと思っております。</p>

委員	<p>はい、どうぞ。佐合委員さん。</p> <p>一つお聞きしたいんですけど、先ほどの委員のお話の関係ですけど、各施設どうしの横の繋がりというのはありますのでしょうか。その辺をお聞きしたいんですが。</p>
委員長	<p>はい、お願いします。</p>
委員	<p>法人の中にもいくつも施設がありますので、そこは法人内ですので、特養間での連携というのはかなりあると思います。ただ、事実的に長岡市内にある特別養護老人ホームがどう連携しているかという、たぶん他市町村よりは長岡の施設というのは、かなり連携できて、情報交換よくできているんじゃないかなと思います。年に何回か私たちの管理者が、市内の管理者が集まって、情報交換したりだとか、そこにまた行政の方々も入ってくださって、そんな中でつないでくださったりとか。また、全体の施設長の集まりの中で様々な情報を教えてくださったりという関係がありますので、他市町村よりはかなり長岡市というのは横の関係は、仲は良いと思います。いろいろ困ったりすると、別の法人でも情報交換し合ったりだとかという状況がありますんで、かなり他施設のことは、お互いに分かり合ってる状況はあると思っております。</p>
委員長	<p>はい、長岡地域の中の法人の横の繋がり、年に2、3回やっておられると同時に、老人福祉施設協議会、老施協でまたいろいろな今日的課題だとか、横のつながり的な部分で会議がされているということでございます。</p> <p>議題（1）、（2）、（3）ということで、いろいろとご意見いただきました。</p> <p>それでは、進行を事務局にお返ししたいと思います。大変ありがとうございました。</p>
福祉総務課企画係長	<p>委員長、どうもありがとうございました。</p> <p>それでは閉会にあたりまして、福祉保健部長より挨拶申し上げます。</p>
福祉保健部長	<p>改めまして、本日はどうもありがとうございました。お忙しい</p>

ところ来ていただきまして。各委員の皆様からですね、いろいろなご意見やご質問をいただきました。私ども、先ほどお話しさせていただいたとおり、やはり長岡の地域の実態を常に踏まえながら、施設の整備、あるいはサービスの充実ということの方向性を決めていきたいと思っております。この推進会議でございますが、今年度は3年に一度の大改定がある中で、このような中間段階ですので、こういった報告に留まっておりますが、来年度は、平成30年度からの3か年計画に向けての具体的な議論をこの場でいろいろ皆様にご検討いただく段階になってまいります。国の制度改正もいろいろと新聞報道でもすでに前倒しでいろいろな情報が出ておりますが、やはりもう一段、介護保険制度が大きく変わっていく局面に来ているんだ、というふうに私どもは思っております。端的に言いますと、財政状況が非常に逼迫した中で、国もなかなかお金がないと、ないなりにどうするか、というのが一言で言えばそういう状況であります。しかしながら、国の全体の制度の枠組みが、方向性になったとしてもですね、その中からある程度自治体としては取捨選択、どこに力点をおいて、どのように長岡市が生き残っていくかというところはですね、工夫の余地があると思っております。これまで我々、個人をはじめとした事業者さんと市民の皆様と、いろいろな市民の力もお借りしましてね、見守りから最後の介護、必要な方がサービス、プロのサービスが受けられる。そういう体制を長年培ったわけでありますので、この国がですね、いろいろと新聞報道では非常に激変するようなことを伝わってきてますけれども、その中で、しっかりと様々な市民の方々の力を結集する中で、必ずや乗り切っていけるな、というふうに思っておりますので、ぜひまた今後の会議の中で、今日いただいた様々な、現場というか、個人的な経験の中でのご質問なり、ご意見というのは非常に貴重でございますので、ぜひ今後ともいろいろな場面でご協力いただければと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

なお、時間が若干あります。先ほどのお話のように、せっかくの機会ですんで、会議は締めさせていただきますが、ぜひ施設のご案内をしたいと思っておりますので、お時間が許す限りですね、トモシアの説明もさせていただきたいと思っておりますので、併せてよろしくお願いいたします。今日はありがとうございました。

<p>委員長</p> <p>福祉総務課企画係長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>委員の皆様、長時間にわたりご議論いただきまして、ありがとうございました。</p> <p>最後に事務連絡をさせていただきます。次回の会議は3月に開催する予定です。日程につきましては、早めにご案内したいと思っておりますので、よろしく願いいたします。</p> <p>本日の議事録につきましては、後日皆様にお送りいたします。あわせて長岡市のホームページにも掲載させていただく予定になっております。本日お車でお越しの方につきましては駐車券の無料処理をさせていただきますので、閉会后、事務局にお声かけいただきたいと思えます。</p> <p>それでは、本日はこれで閉会とさせていただきます。委員の皆様、お忙しいところ、大変ありがとうございました。</p>
<p>8 会議資料</p>	<p>別添のとおり</p>